

みなさん、おはようございます。校長の川端裕子です。
今日は放送なので、みなさんの顔を見てお話しできないのは少し残念ですが、無事に集会を迎えられたこと、嬉しく思います。

新しいクラスが始まって4か月。学校生活を楽しむことができましたか？みなさんの時間の中に、「貝高最高！」と思える瞬間がたくさん生まれていたらいいなと思います。

さて、始業式で皆さんに「大切にしてほしい3つのこと」をお話ししました。

1つめは、「自分を大切にすること」

これは、わがままに振舞うことではなく、「自分の成長のためになるのか」、「自分で自分をダメにしていないか」判断して欲しいということでした。

2つめは「他人を大切にすること」

あなたの行動で人を傷つけたり、誰かの居場所を奪ったりすることなく、相手の思いを想像し、違いを認め、お互いを尊重して欲しいということでした。

3つめは「学校というパブリックなスペースを大切にすること」

学校はあなたの居場所であると同時に、みんなの居場所でもあります。「自分の自由が大切」なのと同じように「周りの人の安心・安全・快適さも大切にしたい」ということでした。

それと同時に、これら3つのことを大切にするために、「なぜマナーやルールがあるのか？」「言葉は何のためにあるのか？」を問いました。

ルールは「誰かを縛るためではなく、全員が安心して学校生活できるようするため」の約束だと私は考えます。そしてそこには理由があるはずです。

わかりやすい例を考えてみましょう。「廊下は走ってはいけない」。理由は「誰かをケガさせないため、自分がケガしないためですよね。」これは、わざわざルールにしないといけないことでしょうか？

では、この例はどう思いますか。「授業中に大きな声で、授業と関係のない話をし続ける」。これもわざわざルールを引いた方がいいのでしょうか？

これらは、最初に言った「自分を大切に」「他人を大切に」「学校というパブリックなスペースを大切に」を理解し、みんなが自分を律してマナーを意識していれば、わざわざルール立てする必要がないのではないかと思うのです。残念ながらマナーを意識できなければ、ルールが生まれてしまうのです。

言葉遣いもそうです。「どんな言葉を発するか」、「どんないい方をするか」は、その人が相手の存在をどう思っているかを写しだす鏡だと思えます。相手を尊重することができているなら、ひどい言葉は出てこなくなります。言葉でつながる人と人。マナーとしてどういう言葉遣いをするのか、考えたいものです。

とはいえ、すべてマナーだけでは収まりません。私たち人は、誰でも自由に行動したいものです。ただ、それでは、他人の自由とぶつかることもあるため、境界線として集団生活、社会生活にはルールが必要です。お互い安心して信頼しあえるために強制されるのではなく、まずは自ら考え、マナーを意識していきましょう。

さて、夏休みを迎えます。この後成績表が渡されますが、それを見てしっかり振り返り、この先、自分はどのようにしていくのかを考えてください。そして夏休みを有意義に過ごしてください。